

殿○羽紫 大友宗麟父子、毛利輝元、吉川、小早川等也、

〔新編相模國風土記稿二十五足柄下郡〕千度小路

古ハ船方村ト唱ヘリ○註 北條氏綱、里見氏ト爭戰ノ頃、當町○小田原ヨリ軍船ヲ出セシ賞トシテ、三ッ

鱗ノ紋ヲ船印ニ賜ハリシトテ、今町内ノ符節ニ是ヲ用キル、

〔御關船御建物明細書并圖三〕御關船龍王丸御船○中略

一七本骨扇上ニ金之賽御船印 壹本

右御建物、雙六賽ニ有之候處、寛文二寅年六月十日、安宅丸御船上覽○德川ニ付、龍王丸御船出

候節、七本骨扇ニ御模様替致出來候處、元祿十六未年、大地震ニ而、御船藏潰候ニ付、大損ニ相成

候由ニ有之候、

〔勘定所條例一〕御城米廻船之儀ニ付御書付○中略

一御城米船印之儀、布ニ而成共、木綿ニ而成とも、白四半ニ、大成朱之丸を付、其脇ニ面々苗字各書

付之、出船より江戸著迄、立置候様可被申付候、諸浦々江も其通申觸候間、自然船印違ひ候歟、又

ハ船印不立置舟有之バ、浦々より注進申來候筈ニ候條、無相違様ニ可被申付事、

右之通、入念被申付、不届之儀無之様尤候、以上、

丑○寛文十三年二月

〔宇和島藩御家舊記〕一同○延八年御船印日ノ丸、公義御船印ニ相成候故、此方様御船印、九曜丸ニ改ル、

〔川船書〕紀州船之事

紀

紀伊殿、江戸に而、大小手船之分は、右之極印打、船印も如此立申候、右之外當分用事有之節は、商人

船遣申儀御座候、其船には當座印を立、紀之字書付申候、以上、